

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1996

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆続報 1/27以前の発生否定 終息待ち

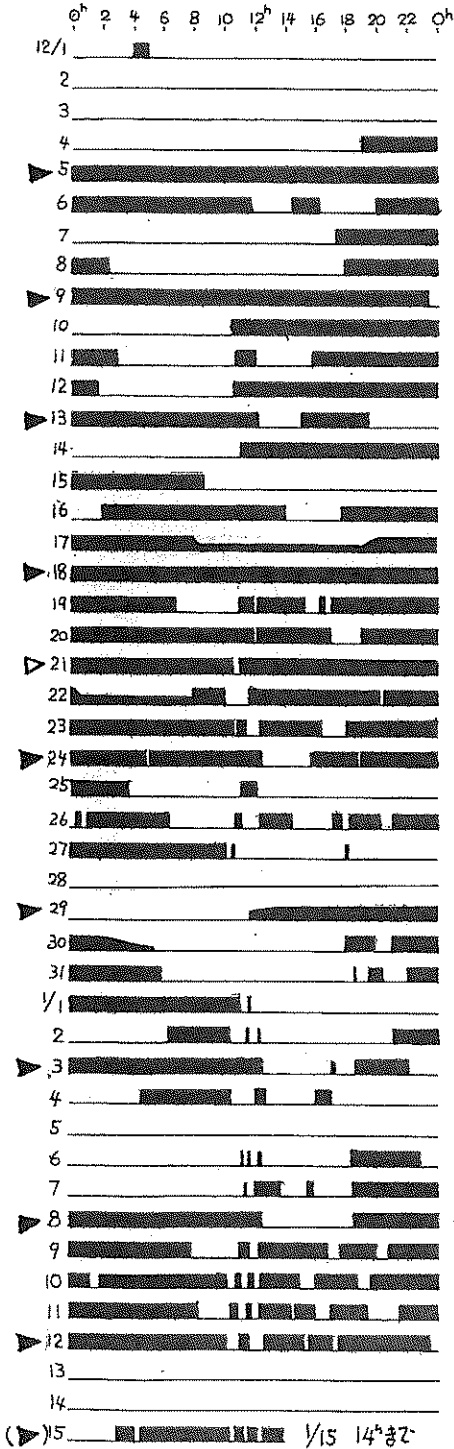


図-3) K8系状特異日々出現スケッチ

基線が糸状態の時間帯を黒棒で示してある。横軸一本が一日。
▶印=周期性変化小ピークの可能性
▷印=周期性が無い小ピーク認識。

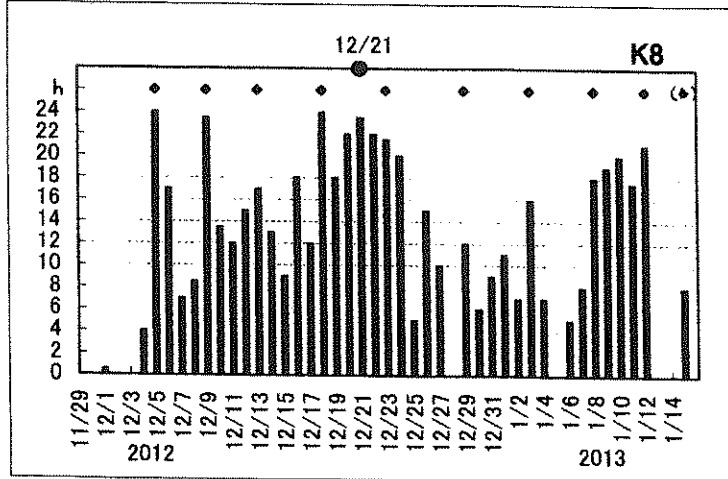


図-1) K8系状特異

日々の糸状特異出現
時間計の積算グラフ

上部の♦印=図-3)
左スケッチの左部に
印した周期性認識。
●印はK8特異の山型
変化からの極大認識
(1/15 14時までの日)

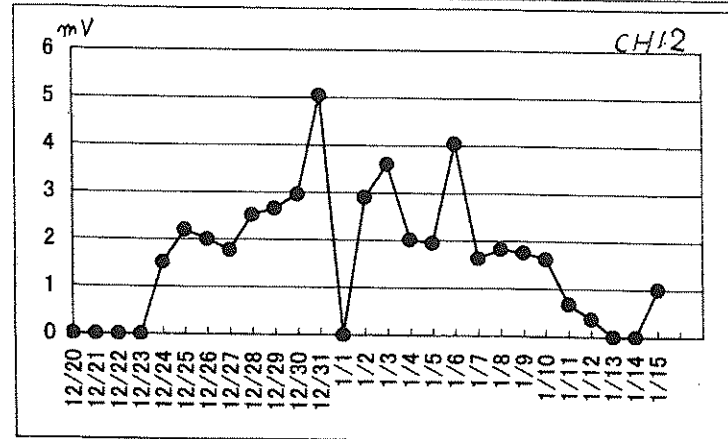


図-2 CH12 櫛歯変動

基線から櫛歯状に突
出する地殻地震特有
変動の基線からの突
出平均値のグラフ
単位はミリボルト。

No.1778長期継続特殊前兆=近畿圏地殻大型地震推定前兆の続報です。

1/13±に前兆終息変化が認められませんでしたので、1/21±発生の可能性は否定できません。本日CH16が極めて静穏化、14時半以降は完全静穏基線記録中です。左図はK8の糸状特異の日々出現状況スケッチですが、13日14日と二日完全に糸状特異出現はありませんでした。しかし、上図縦棒グラフのとおり、終息には早過ぎるので、再び出現がある筈と待っていました。本日再び糸状特異出現。CH12の櫛の歯変動(地殻地震特有前兆)も1/13日と14日は終息していましたが、本日未明再び出現。CH12櫛の歯とK8糸状特異は変化が同期している様に見えます。1/21±発生が否定されたことから、K8の変化から初現=12/1±の認識が良いこととなります。但し、全てが見えていない(糸状特異が出現していない日がある)ことから、初現は一日程度前の2012年11月30日±の可能性有。11/30=初現 12/21.5=極大認識 と仮定して $T_{\text{fap}}:T_{\text{map}}=20:13$ 経験則で計算しますと⇒ $T_{\text{map}}=39.9\pm$ $T_{\text{pp}}=10.2\pm$ 推定発生日=1/30.4± と計算できます。

12/4と12/18 極大に対しての終息を計算致しますと、仮に1/30.4±発生の場合は、(左下)本日のCH16が明日以降正常基線継続の場合は、左のとおり12/4極大に対する静穏化の可能性有。但し、12/18 極大に対する1/19±の静穏化推定時期まで断続的に継続出現の可能性も有。この認識と推定が正しい場合は、K8糸状特異とCH12櫛の歯前兆は1/20頃終息

12/4 極大に対して⇒1/15.7±終息の可能性
12/18極大に対して⇒1/19.3±終息の可能性

する可能性が計算できます。また現在も継続中のCH21特異は、19日頃終息する可能性も示唆されます。但し12/4と12/18 極大が発生時期を示すかどうかは不確定。従ってK8特異に注目。ちなみに左K8特異の周期性からは、あくまでも参考ですが、周期性=4.56 周期性無=12/21 認識とした場合⇒ $12/21 + (4.56 \times 9) = 1/31 \pm 3$ が計算できます。これはBTでは無い為、参考。追って、変化と続報を報告予定です。 C) Copyright 2013 YSBO 八ヶ岳南麓天文台